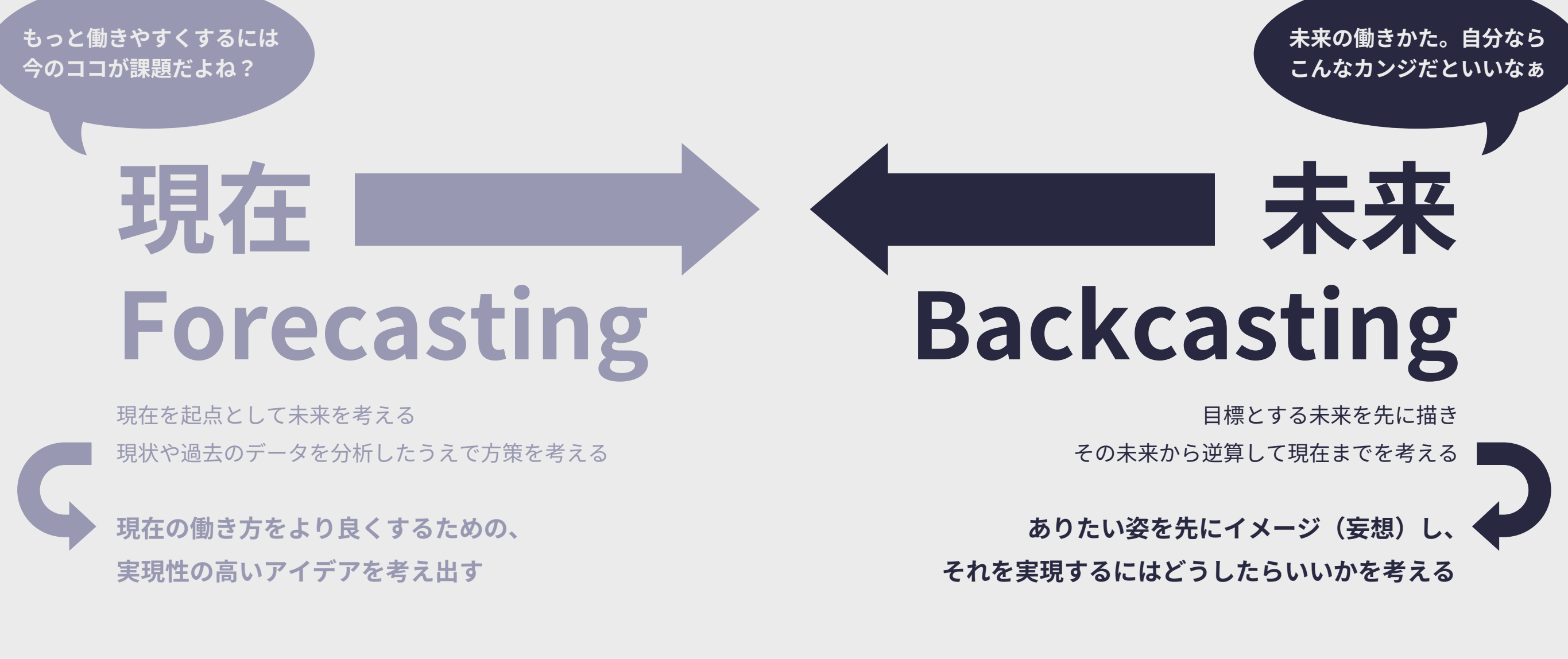


妄想する働きかた研究所

私たちの「これからの働きかた」を、妄想してみました。

妄想する働きかた研究所（妄働研）は、バックキャストイングアプローチによって理想の働きかたを実現させていこう！という目的で生まれたイノラボ発のチームです。会社のルールやオフィスのあり方など、様々な視点から理想のワークスタイルをメンバーで妄想し、その実現に向けて今できることはないだろうか検討を進めています。下にある妄想たちは現時点の議論を集約したのですが、みなさんはどのような働きかたが良いでしょうか？自分ごとの未来として考えてみるきっかけになれば幸いです。



1

場所・時間

場所や時間に縛られる働きかたはもう終わり。もっと合理的に、もっと自由に働いてみたい。

技術の進歩、変革のスピードは凄まじいもの。ネットワークに繋がるだけで、私たちは仕事を進められるようになりました。一方、決められた場所で、決められた時間まで働く。このルールを守ることに、私たちは今までどれほどの努力を費やしてきたのでしょうか。朝日とともに起き、コーヒーを淹れながら資料を眺める。子供寝かしつけ、集中できる静かな環境で黙々とコードを書く。たまには遠くへ行って、海を背景に打ち合わせ。こんなふうな仕事ができたら生き生きと自分らしく働けそうだなあと考えたこと、ありませんか？きっと、これまで当たり前だった暗黙のルールを本質的な部分から見直した先に、そんな働きかたがあるのでしょ。

2

ダイバーシティ

ダイバーシティとは、人それぞれの生き方を受け入れること。きっと、雇用契約も人それぞれ異なっていくはず。

今は家族との時間を優先したい、趣味と仕事は両方大事にしたい、自営業と両立して、いつか自分の夢を叶えたい... 一人ひとりの理想の働きかた・働きかたは、まさに十人十色。しかしながら、従来の雇用契約はそれほど柔軟には対応していません。「ダイバーシティを重視します」と声高に言っても、現状は対応できる範囲に限界があるでしょう。例えば、会社側が「その人専用の雇用契約」を運用するとしたら、一人ひとりが働く時間・場所・働きかたを選択し、会社からの期待と自分の希望とをきちんとすり合わせられる。そんな仕組みがあれば、多様な生きかた・働きかたが尊重される社会を実現できるかもしれません。

3

働きながらも、子供とのかけがえのない時間を増やしたい。だったら、会社と学校をくっつけてみたら？

もし、自分が勤める会社と子供が通う学校が「同じ敷地内」にあったらどうなるでしょう？子供と一緒に通勤通学をして、ランチ時には子供から給食のお誘いが来たり。帰りの電車で今日一日の出来事を交換し、ふとした瞬間に子供の成長を実感できたり。かけがえのない瞬間を見逃すことのない、これまでにないとっても新鮮な体験ができるかもしれません。リモートワークによって、家族との時間の大切さをあらためて実感した方は多いと思いますが、会社のルールを見直す、といった変化の方向もあるのでしょうか、時に「会社と学校をくっつけてみる」といったような大胆な発想が、これまでになく新しい働きかたにつながるかもしれません。

4

作業効率

作業効率200% UP。好きな仕事に集中できる環境があるから、私は入社したいと思えるんだ。

急速に普及したテレワークですが、仕事をする環境に悩んでいる方は案外多いのではないのでしょうか。作業スペースの確保、椅子やデスクの用意、ディスプレイや機材も。で、指ったはいけど何か周りがうるさい...といったように。作業環境は仕事のパフォーマンスに大きく影響するものですよ。通勤時間の兼ね合いで「もう出社なんて必要ないや！」と思っている人も多いと思いますが、例えば未来のオフィスがあなたにとって最高の作業空間だったらどうでしょう。周りをシャットアウトして集中できるスペースがあり、視界いっぱい広がるディスプレイも完備。さらには好奇心を満たす最新の機器が勢揃い...。それでも出社なんて必要ないと思えるでしょうか？出社する、しないのお話は、単に通勤時間云々の話ではなく「出社する価値がある環境」が会社にあるか、ないかの話なのかもしれません。

5

テレワークだと不摂生な生活になりがちな私は、毎日を健康に過ごすために、定期的な出勤を心がけています。

テレワークの普及に伴い、問題になっているのが社員の健康。一日中家にいるため運動不足になりやすかったり、人の目が届かないことで体調異常に気付かれにくかったり。社会的な高齢化もあいまって、未来はますますヘルスケアが重要になりそうです。例えば、未来のオフィスが今よりもっと社員の健康を維持・改善・向上させるためのサービスが備わっていたら良さそうですね。心配なことがあれば、いつでも気軽に健康診断ができてもいいかもしれません。日々の食事指導が受けられてもいいかも。マッサージやエクササイズなどがあれば個人でジムに通わなくても済むなあ...とかとか。社員は出社することで最適なコンディションを保つことができ、会社側も社員の適切な健康管理ができるようになります。

6

ランチも美味しい。定時後のお酒も美味しい。気の合う仲間と気軽に夢を語り合える。そんな場があれば最高だ。

あの人もっと仲良くなりた。仕事の悩みを誰かに相談したい。自分が持っている夢を熟く語りたい...。きっと誰もこんな思いを抱えたことがあるはず。そんな時は、広めに社内のダイニングバーへ。会社所属のシェフとバーテンダーが、私たちのために腕を振ってくれます。同僚もシェフもバーテンダーも、あなたの仕事と舌を深く理解してくれている仲間です。もしかしら、そのシェフは料理上手な社員、バーテンダーはお酒に詳しい社員、ということもあるかもしれません。もうお店を探さなくても、面倒な日程調整をしなくても、仲間と打ち付けられる空間はすぐそばに。美味しい料理や美味しいお酒が、あなたの心も仕事も支えてくれる。そんな環境は、言わずもがな「最高」じゃないですか。

7

秘書 AI

秘書 AI よ、わずらわしい雑務は全て君に任せました。私は自分の成すべきことにフルコミットする...！

明日は打ち合わせだから、その準備をしなくちゃいけない。あの企画書も急いで作らなくちゃいけない。やらなければならないことはたくさんあるのに、そんな時に限って事務処理を急がされる。なぜか色々なことが重なってくるタイミングでありますよね。でも、未来ではそんな日々の業務をサポートしてくれる相手ができているかもしれません。自分のやりたいことは自分で、やらなくてはいけないけど、代わりにやって欲しいことは相棒に。そんな世界が実現したら、とても働きやすいですやろ。また、単に一方的な処理をしてくれるだけでなく、双方向にスムーズなやり取りができて、自分の状況を理解して先回りしてサポートしてくれるりすると最高ですよ。

8

私のカラダは、ただ1つ。でもバーチャルでは、たくさんの「ワタシ」が働いています。

いつの間にか、打ち合わせで埋まっているスケジュール表。「ああ、この日は他の予定と被ってしまったから、リスケしてもらわなきゃ。」この日も打ち合わせが入って被って、この日は作業したいんだよね。「ああもう！自分ももっとたくさんいたらいいのに...！」なんてこと、ありませんか？そんなお悩みが、未来ではきっと解消されているはず。なぜなら、自分のアタマの中をうまく理解したエージェントが、もう一人の「ワタシ」として振る舞ってくれるから。いくつ予定が被るうが、何人に話しかけられようが、全て自分のことをよく知っている「ワタシ」が対応してくれるんです。

9

コミュニケーション

伝えたいことは同じでも言い方は千差万別。この人にはこの言葉遣いを、あの人にはあの言葉遣いを。もちろん自動で。

テキストコミュニケーションが日常の今、文章を書くことに多くの時間を割いていませんか？伝えたいことが頭にイメージできていても、書いてみたら「う〜ん」と悩む。そして書いては直し、書いては直しの繰り返し。もっと分かりやすく伝えるには？目上の方や、顧客に対して失礼な表現になっていないか。異性や部下に対してハラスメントをしてないかなど。文章を書きながら、いろんなことが頭をよぎって気づけば1時間...。きっと未来は「伝えたいことの要約」と「相手の属性」を入力するだけで、その相手に最適な「伝わる文章」に変換され、自分のイメージを正確なく伝えられるような世界に。そうなれば、仕事をもっと効率的に進められるはず。

10

コトバ

あなたが作りたいものは「コトバ」だけで作ることができる。「コトバ」があれば、何でもできる。

未来のあなたに必要なのは、何よりも「コトバ」かもしれません。それは、あなたが持っているイメージを AI に伝えるだけで、ビジュアルやコードなど、さまざまなアウトプットを自動で作ってくれる時代がやってくるから。感情のおもむくまま、とにかく思いついたことを AI にたくさん伝えてみる。すると、「アナタが言ってるのはこんな感じじゃないの？」と AI がスバッと作ってくれます。アウトプットが出力されたら、最後にあなたのセンスで整えて、はい！できあがり。このように、作る・生み出すという作業方法が、未来はガラッと変わるかもしれません。

11

オンラインミーティング

私たちは議論だけに集中しよう。面倒なまとめや資料づくりは勝手にやってくれるから。

オンラインミーティングツールの高機能化が著しい昨今。未来はそこに AI が介在する会議によって、もっともっと効率化できるかもしれません。例えば「会議のまとめかた」を向上させてみたら。TV ドラマのような「前回までのあらすじ」や「総集編」のように、1時間の会議を5分の動画にまとめてくれる。そうなる、プロジェクトに途中参加するときや、会議の内容を簡単に知りたい時などに便利かもしれません。さらには、発言内容の図式化や提案資料のドラフトなどをすべて AI におまかせ、といったこともあるかも。あなたは今5分だけ議論に集中して、会議はババァと終わらせる。資料は誰が作るの？ 15分という、空気の読み合い、押し付け合いもなくなるでしょう。

12

脳内イメージ

脳内イメージをそのまま描くことができる。想像力で勝負の時代がやってくる。

イメージを頭に思い浮かべること、実際に描き出すことは全く別物ですよ。完璧にイメージできているのに、思うように描くことができない。もっと絵心があれば...。未来には、こんな悩みを解決してくれる「脳内ビジュアルライズシステム」が登場するはず。文字通り「頭で考えているイメージ」を読み取り、そのまま画像として出力してくれる技術です。誰でも簡単に自分のイメージを具体化できるため、絵が苦手な人でも思い通りの表現ができるように。デザイナーなど、絵を描くことが得意な人も、脳内で描けるデジタルにビジュアルライズできることで、今よりもっと作業を効率化できるかもしれません。

私たちが妄想した「これからの働きかた」。これが単なる妄想で終わるのか、実現への第一歩になるのかは、「これからの私たち」次第！